

福祉学習プログラム集

(学校編)

目次

はじめに	1
①地域と共に進める福祉学習	2～3
地域との連携・協働	
福祉学習展開のプロセス	
②福祉学習実践のポイント	4
プログラムづくり 7つのポイント	
③社協は福祉学習の応援団です！	5～6
担当の先生と確認したい内容	
一度の体験だけに終わらせない	
④プログラム例のご紹介	7
プログラム① 社会福祉協議会（社協）の取り組みを学んでみよう	8～9
プログラム② 車いすでまちを歩き探索してみよう	10～11
プログラム③ 障がい者と一緒にニュースポーツに挑戦してみよう	12～13
プログラム④ 視覚障がいを理解しみんなでお互いに助け合おう	14～15
プログラム⑤ 手話やその他のコミュニケーション方法を学んでみよう	16～17
プログラム⑥ 高齢者の疑似体験を通して	
おじいちゃん、おばあちゃんと交流してみよう	18～19
プログラム⑦ 私たちのまちの赤い羽根共同募金について	
関心を持ち、実際に活動してみよう	20～21
プログラム⑧ みんなも認知症サポーターになろう	22～23
プログラム⑨ みんなも消費者見守りサポーターになろう	24～25
【参考資料】	
米沢市社会福祉法人連絡協議会『福祉学習』メニュー	26～27
【資料編】	
福祉学習依頼書【様式1】	28
福祉学習打合せシート【様式2】	29～30

はじめに

米沢市社会福祉協議会（以下「社協」という。）とは、**い**だんの**く**らしが**し**あわせになるよう、公的福祉サービスだけでは解決できない様々な福祉問題に取り組んでいる民間の団体で、市民の皆様が会員となっています。

社協は、地域の福祉力を高め、助け合いの輪が広がるよう各種団体の連携・協力のもと、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進しています。

山形県社会福祉協議会では、地域で暮らす人たちが相互に助け合い、支え合いながらともに学び育ち合う福祉の心を育てる取り組みを「福祉教育（福祉共育）」としており、それを受けて米沢市社協では、福祉教育事業の表し方を『福祉学習』としています。

そこで、誰でもわかりやすく親しみながら福祉を学ぶための資料として「福祉学習プログラム」を作成しました。

社協では、福祉学習を実施するにあたり学校関係者や地域の方々から様々な相談をいただいています。

その多くは、

- ・車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験をしてほしい
- ・車いす、高齢者疑似体験セット、アイマスク、点字プレート等の機材を貸してほしい
- ・視覚障がい者や盲導犬の話を聞きたい
- ・施設に訪問したいので調整してほしい

など、福祉に関わる学習を進めるための相談です。

しかし、福祉学習は、単に車いすに乗ること、高齢者や目の見えない人の体験をすることではありません。それぞれを体験し、当事者との交流などを取り入れて、福祉（高齢、障がい、子ども）についての理解を深め、助け合いや支え合いの必要性について気づき、学ぶことです。また、自分達の地域を知り、一人ひとりが地域のなかで支え合いながら生活していることや大人と一緒に学ぶことでお互いが支え合っていることを知り、福祉やボランティアに興味を持ってもらうために行うものです。

そのため、これからの福祉学習は、学校と社協、米沢市社会福祉法人連絡協議会だけでなく、地域（町内会、企業、当事者、専門機関、地域住民等）を含め、学校、地域、社協が協働し、それぞれの強みを共有しながら、地域全体で取り組むことが望まれます。

①地域と共に進める福祉学習

地域との連携・協働

これまでは、学校を中心とした福祉学習が進められてきました。学校は、そこに通う全ての児童・生徒へ学習の提供が可能であり、その「空間」や「時間」が活用できるメリットがあります。

しかし、福祉学習を進める場所は、学校だけではなく、様々な所で実施することができます。

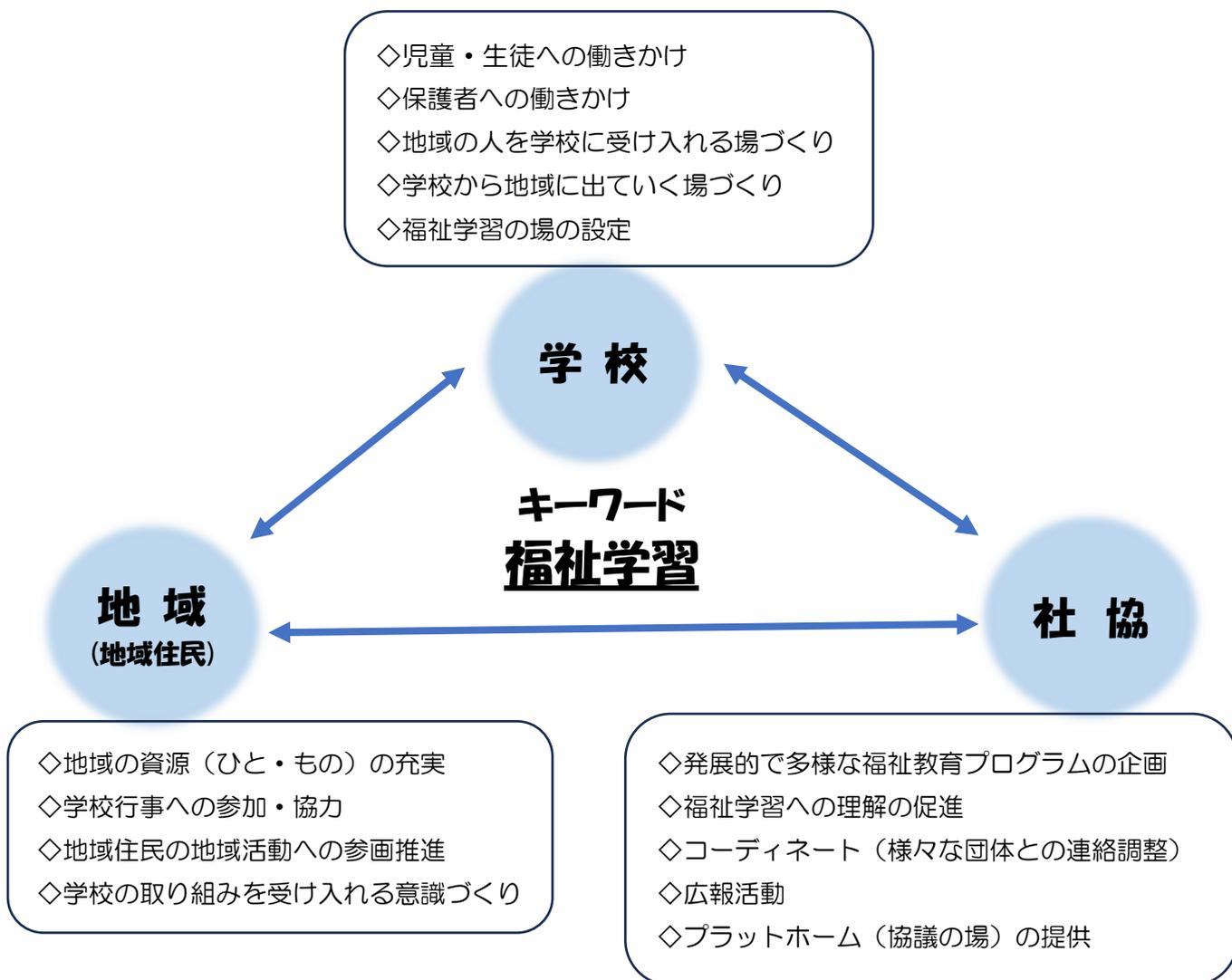
学校で進める福祉学習 とともに

- 地域で進める福祉学習**
- 学校と地域が交流し、力をあわせて進める福祉学習**

なども、現在、積極的に進められています。

地域の方と協働し学習を進めることで、児童・生徒の学びや人との関係性の構築も幅広いものになります。地域の方々も、児童・生徒が豊かな心を育み、成長していくことを応援してくれるはずです。

なお、福祉学習の対象者は児童・生徒だけではなく、私たち大人も一緒に学び、考えていくことが大切です。



福祉学習展開のプロセス

興味・関心を持つ

テーマに興味や関心を持ち、「なぜ」「どうして」という気持ちを育む。



気づく

調べ学習・聞き取りなどを通して疑問を持つ。(気づき)



考える

気づいたことを話し合い、考え、共有し、テーマを明確にしていく。



行動する(交流や活動)

気づきや発見から課題を見つけ、具体的に行動する。



振り返り

体験して学んだことを話し合う。これからに向けた視点で、関わった協力者と一緒に振り返りを行う。



新たな行動へ

振り返って気づいたことを自分の生活につなげ、地域に戻ってからの新たな行動に取り組む。

②福祉学習実践のポイント

プログラムづくり 7つのポイント

① ねらいや目的をはっきりさせる

児童・生徒に何を伝え、何を感じ、何を学んでほしいかを明確にし、共有しましょう。

② 事前の打ち合わせを行う

福祉学習は社協だけで行うものではありません。学校の先生や講師など地域の協力者と事前に綿密な打ち合わせを行い、関わる人すべてが共通認識をもてるようにしましょう。

③ 教材を効果的に使う

どんな教材を活用したら教育効果が高まるか、学習にどのように取り入れるか検討します。車いすやアイマスクだけでなく、講師との交流や講話、写真や映像などの視覚資料、また地域の社会資源も積極的かつ効果的に活用しましょう。

④ 体験学習を効果的に行う工夫をする

体験学習は児童・生徒に「気づき」を与え、学びを深めます。プログラムのなかで積極的かつ計画的に取り入れましょう。

⑤ 当事者との交流を大切にする

当事者不在の福祉学習は教育効果が低くなります。特に疑似体験は当事者と一緒に取り組むことで、プラス面とマイナス面を伝えることができ、本当の意味での当事者理解につながります。

⑥ 振り返る時間を設ける

児童・生徒が、福祉学習プログラムのなかでどう感じ、何に気づいたのか、活動を通じてどのように考えが変わって、これからの地域での生活にどのようにつなげたいか、振り返る時間を設定しましょう。気づきが生まれやすい体験活動や話し合いのあと、一連の学習での自分の成長が感じられるプログラム終盤での設定などが効果的です。

⑦ プログラムの評価をする

児童・生徒だけでなく、企画者や協力者も振り返ることで、次のよりよい活動を生み出し、引き継ぐことにつながります。

③社協は福祉学習の応援団です！

社協は、地域住民で構成された民間の団体であり、ふだんのくらしがしあわせになるよう、市民のみなさんと一緒に連携・協働し地域福祉活動に取り組んでいます。

また、福祉に関わる様々な取り組みを行っており、福祉学習も地域福祉の向上に大きく関わっています。

社協と学校のノウハウやネットワークをそれぞれに活かしながら、ともに悩み、ともに考え、ともに福祉学習の充実につなげていけるよう、福祉学習のお手伝いもしています。

福祉学習の具体的な進め方や事例、学校の先生の関わり方、地域住民への関わり方、社協職員やボランティア・当事者の方との関わり方については、お気軽に社協にお問い合わせください。

以下の内容について、お気軽にご相談ください。

◇プログラムづくりへの情報提供・相談

◇人材・講師派遣に関する調整

◇つどい・交流の機会の提供・調整

◇福祉学習器材・用具の貸出

・車いす 25台

・高齢者疑似体験セット 5セット

・アイマスク 45ヶ

・点字キット 45ヶ

◇ボランティア保険の加入 など

お互いにつながり、助け合い、支え合う地域を目指して

社協は、地域や学校などと共に歩んでいきます。

担当の先生と確認したい内容

①福祉学習の目的・ねらいの確認

実施する上で、学校・担当の先生の思いや目的、ねらいについてお聞きし、児童・生徒の学びにつながるようコーディネートしていきます。

②日にちの確認

実施日は3候補日まで教えてください。（講師との日程調整のため）

③時間の確認

体験内容によって時間が変わります。何校時目から何校時目までか。また、始まりと終わりの時間等を詳しく教えてください。

④対象者の確認

学年、クラス数、全体人数、クラス人数を教えてください。

⑤希望する体験の確認

車いす体験、高齢者疑似体験、視覚障がい者体験、手話体験、視覚障がい者の話、ニュースポーツ、点字、老人クラブとの交流、サロン活動団体との交流、地域の方との交流、赤い羽根共同募金について、認知症サポーター養成講座、消費者見守りサポーター養成講座 等

⑥場所の確認

体育館、広い教室、廊下等、体験内容によって使用する場所が変わります。

⑦体験学習は、米沢市社会福祉法人連絡協議会（市内の福祉施設）の協力をいただきながら行っています。福祉専門職の方に講師をお願いすることもあります。

⑧講師への謝礼

学習の内容によっては当事者の方（聴覚障がい者・視覚障がい者 等）に謝礼が必要となる場合もありますので、その際には準備をお願いします。詳しくは問い合わせの時に確認ください。

一度の体験だけに終わらせない

福祉学習のイメージは、車いすを体験すること、高齢者の体験をすること、手話を覚えること、当事者と交流することなど、福祉に関する体験をすることそのものが目的だと誤解があるようです。これらの取り組みは、福祉についての理解にはつながりますが、児童・生徒が体験を通して得た気づきや疑問の解決にはつながりません。「自分たちは何ができるのか」、「解決していくためにはどうすればいいのか」を児童・生徒自身が考え、行動していく実践力を養うことで体験学習の意味を成すものといえます。体験だけにとどまらず、繰り返し学習（体験）を重ね、様々な人と関わる機会を増やし、自発性を高める機会を支援することが不可欠です。

④ プログラム例のご紹介

プログラム① 社会福祉協議会（社協）の取り組みを学んでみよう

プログラム② 車いすでまちを歩き探索してみよう

プログラム③ 障がい者と一緒にニュースポーツに挑戦してみよう

プログラム④ 視覚障がいを理解しみんなでお互いに助け合おう

プログラム⑤ 手話やその他のコミュニケーション方法を学んでみよう

プログラム⑥ 高齢者の疑似体験を通して

おじいちゃん、おばあちゃんと交流してみよう

プログラム⑦ 私たちのまちの赤い羽根共同募金について

関心を持ち、実際に活動してみよう

プログラム⑧ みんなも認知症サポーターになろう

プログラム⑨ みんなも消費者見守りサポーターになろう

社協では、福祉学習の進め方や内容の組み立てなどのお手伝いをいたします。このプログラムはひとつの例示であり、進め方やポイントは地域の特性や学年によって工夫が必要となりますので、ぜひ本プログラムをご利用の際はご相談ください。

①「社会福祉協議会（社協）の取り組みを学んでみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	4時間（45分×4）

【学習のねらい】

- 社協を知ってもらう。
- 社協の事業内容を学ぶ。
- 福祉のまち米沢市の将来像について語り合う。
- 「ふくし」を身近に感じられるようわかりやすく伝える。

【指導上のポイント】

- 社協を紹介する動画を視聴してもらう。
- 社協職員が学校に出向き、取り組み紹介。（オンラインを活用しての授業も可能）
- ともに助け合い、支え合う福祉のまち米沢市の実現に向けたグループワーク。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふくし」についての説明 ○社協紹介動画視聴 ○社協職員質問コーナー（オンライン授業可） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふくし」とは何か。について説明し、理解を深めてもらう。 ○社協の事業内容を紹介する。 		45分
体験編	<ul style="list-style-type: none"> ○社協職員とのグループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒が小グループに分かれて、社協職員との交流する。「こんな助け合い、支え合いが出来たらいいな」など福祉のまち米沢市の将来像について語り合う。 		60分～90分

振り返り まとめ	○振り返り	○社協職員との交流や将来像についてお互いに話しあったことや、感じたことについて発表の場を設ける。	45分
-------------	-------	--	-----

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・社協職員



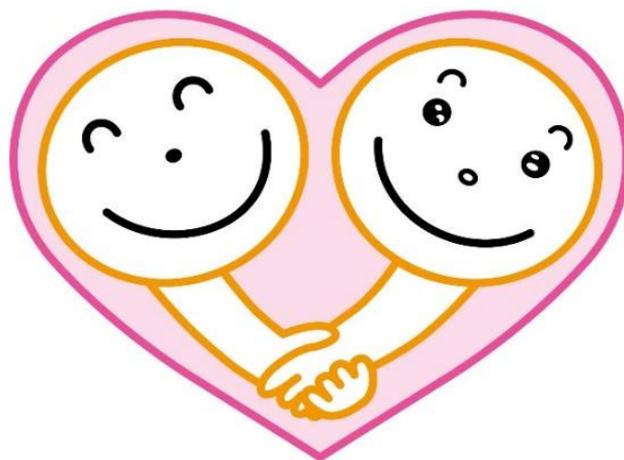
除雪ボランティア活動の様子

学生の協力をいただきながら除雪活動を行っています。



和太鼓体験 EXADON の様子

世代間交流を目的とし、地域住民が楽しめる内容で行っています。



ハートくん こころちゃん

社協マスコットキャラクター

②「車いすでまちを歩き探索してみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	6時間（45分×6） ※人数によって変わる

【学習のねらい】

- 様々な障がいがあることについて理解する。
- 誰もが安心して暮らしやすいまちづくりのために、ハード面（道路の形状、歩道の段差、信号、トイレ、建物、お店の入り口、公共交通機関など）の部分にどんな創意と工夫が必要か考える。
- ハード面だけではなく、「心のバリアフリー」のために何が必要か考える。
- 障がい者や高齢者などの車いす利用者にとって、安心して暮らしていくためのまちづくりについて考える。

【指導上のポイント】

- 自分にとっての障がいとは、相手にとっての障がいとは何かを考え、理解する。
- 車いすを使用するにあたり、事故やケガをしないよう事前に使い方の説明を行う。
- 車いす利用者への声かけの方法と声かけの必要性について説明する。
- まちを歩く際に、車いす利用者に同行してもらうことで、より当事者の視点に立った学習ができる。
- まちを歩く際は、学校関係者だけでは人員が足りないことが想定されるため、地域の方（民生委員・児童委員、町内会関係、ボランティアなど）の協力をもらえるよう調整する。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	○福祉と障がいについての説明	○福祉とは何か。障がいとは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。	○資料 ○車いす ○地図	45分
	○グループに分かれ校舎内を体験	○車いすの部位の名称、注意事項についてマニュアルを基に確認する。 ○グループごとに校舎内をまわる。（グループ内で押す人、乗る人を決め交代しながら行う。また、お互いの目線の高さ、出入り口の幅、ドア、水場、トイレなどを意識し体験する）	○筆記用具	70分
	○計画づくりとイメージづくり	○どのようなルートで回るかをグループで話し合う。		20分

<p style="text-align: center;">体験編</p>	<p>○まち歩き</p>	<p>○実際に車いすを使い、グループ毎まち歩きをする。</p> <p>○車いす利用者にとってどんなところが不便であるかメモを取りながら歩く。</p> <p>○学校に戻りグループごとに意見交換しながら大判用紙に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を感じたか。 ・どこが不便だったか。 ・何が不便か。 ・どう改善するか。など <p>○バリアフリーマップを作成する。</p>	<p>○車いす</p> <p>○記録用紙</p> <p>○筆記用具</p> <p>○地図</p> <p>○大判用紙</p> <p>○マジック</p>	<p>90分</p>
<p style="text-align: center;">振り返り</p>	<p>○振り返り</p>	<p>○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。</p> <p>○作成したバリアフリーマップについて発表する。</p>		<p>45分</p>

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事者 ・民生委員・児童委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア ・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・米沢市社会福祉法人連絡協議会
--	---	--



③「障がい者と一緒にニュースポーツに挑戦してみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	5時間（45分×5） ※人数によって変わる

【学習のねらい】

- 様々な障がいがあることについて理解する。
- ニュースポーツの意義を正しく理解する。
- 障がいを持っている方と実際に交流をすることで、障がいについての理解を深める。

【指導上のポイント】

- 障がいを持っている方と一緒に行動するため、事前に障がいについての理解を深める。
- 使用する道具でケガをしないように注意する。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	○福祉と障がいについての説明 ○ニュースポーツの意義と種類について説明	○福祉とは何か。障がいとは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○障がいを持っている方より、ニュースポーツについて話をしてもらう。	○資料	45分
体験編	○ニュースポーツ体験	○グループに分かれてそれぞれのニュースポーツを体験する。 ・ボッチャ ・卓球バレー ・モルック ・カローリング ○障がい者と交流する。 ○山形県障がい者スポーツ協会、米沢市身体障がい者福祉協会等の協力をいただき実施する。	○ボッチャ ○卓球バレー ○モルック ○カローリング	90分

振り返り まとめ ・	○振り返り	○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。 ○体験して感じたこと、気づいたこと、思ったことなどを発表する。		45分
------------------	-------	--	--	-----

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事者 ・ボランティア ・保護者 	<ul style="list-style-type: none"> ・米沢市身体障がい者福祉協会 ・地域住民 ・米沢市社会福祉法人連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県障がい者スポーツ協会 ・民生委員・児童委員
---	--	--



ボッチャの様子



卓球バレーの様子



カローリングの様子



モルックの様子

④「視覚障がいを理解しみんなでお互いに助け合おう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	5時間（45分×5） ※人数によって変わる

【学習のねらい】

- 視覚障がいの種類や原因を知り、理解する。
- 視覚障がい者のどんなところに不便があるのかを知り、気づきにつなげる。
- 視覚障がい者を安全に誘導する方法を知り、声かけやコミュニケーション方法を学ぶ。
- 目が見えなくても日常生活を送るための方法を学ぶ。

【指導上のポイント】

- 児童・生徒が思っていること、感じたことを素直な意見として引き出すような働きかけをする。
- 目が見えないことで、「怖い」という認識にならないように注意する。
- 誘導する人の声かけやお互いの信頼関係の大切さがわかるように伝える。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉と障がいについての説明 ○視覚障がいについてみんなで考える ○視覚障がい者について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・接し方、声のかけ方 ・点字 ・生活を支えるアイテム ・白杖 ・買い物 ・ガイドヘルパー 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉とは何か。障がいとは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○グループに分かれ、視覚障がい者はどんなところに不便を感じているのかを考え、大判用紙にまとめる。 ○視覚障がい者の状況、生活の様子、接し方などについて説明する。 ○視覚障がい者への援助方法を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・声のかけ方 ・誘導する時の注意事項 ・誘導時の基本姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ○大判用紙 ○マジック ○付箋紙 ○資料 	45分

体験編	<p>○体験</p> <p>○視覚障がい者を助けるための道具や設備を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロックポジション ・点字ブロック ・音響式信号 <p>○点字を打つ</p>	<p>○ペアをつくり、アイマスクをつける人と誘導する人に分かれる。(校舎内、外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広いフロアを歩く ・狭いところを歩く ・段差のある所を歩く ・水場での体験 ・いすに座る体験 <p>○目が見えないことは「怖い」とならないような問いかけや投げかけをする。</p> <p>○ペアになった際は、お互いの信頼関係が必要となるため、コミュニケーションの大切さや重要性について気づかせる。</p> <p>○点字の打ち方、点字キットの使い方を説明する。</p>	<p>アイマスク</p> <p>ハンカチ</p> <p>時計盤</p> <p>資料</p> <p>○点字キット</p> <p>○紙(用紙)</p>	90分
	<p>○振り返り</p>	<p>○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。</p> <p>○体験して感じたこと、気づいたこと、思ったことなどを発表する。</p>		45分
振り返り				45分

【想定される協力団体】

・当事者	・ボランティア	・米沢市社会福祉法人連絡協議会
------	---------	-----------------



視覚障がい者の生活に欠かせない点字。
点字はいろんなところにあるので、みんなで探してみよう！！

⑤ 「手話やその他のコミュニケーション方法を学んでみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	4時間（45分×4） ※人数によって変わる

【学習のねらい】

- 聴覚障がいとはどういう障がいなのかを学び、聴覚障がい者を正しく理解する。
- 聞こえる人との違いを知り、聞こえる自分たちができることを考える。
- 聴覚障がい者の生活を知り、不便なことや工夫していることを学び、考える。

【指導上のポイント】

- 外見で判断しにくい障がいであるため、聞こえる人との違いを説明する。
- 伝え方には、工夫をすればいろいろな方法があることを説明する。
- 手話通訳者の協力を得ながら、聴覚障がい者と打合せを行う。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	○福祉と障がいについての説明 ○聴覚障がいに対するイメージを話し合う	○福祉とは何か。障がいとは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○外見ではわかりにくい障がいであることと、聴覚障がいについて理解を深めてもらう。	○資料	45分
体験編	○聴覚障がい者への様々な伝え方を学ぶ ・当事者の講話 ・手話以外の伝え方の体験 ・手話体験	○手話は日本語とは違う言語であることを伝える。 ○声に頼らずに正確に情報を伝えるにはどうすれば良いのかを考える。 ○聞こえないことで困ることの体験談を聞き、自分ができること、相手に対してどのような配慮をしたらいいのかを考える。 ○手話を使う時の注意点について説明する。	○簡単なあいさつのテキスト ○指文字表 ○ヘッドホン ○手話通訳者	60分 ～ 90分

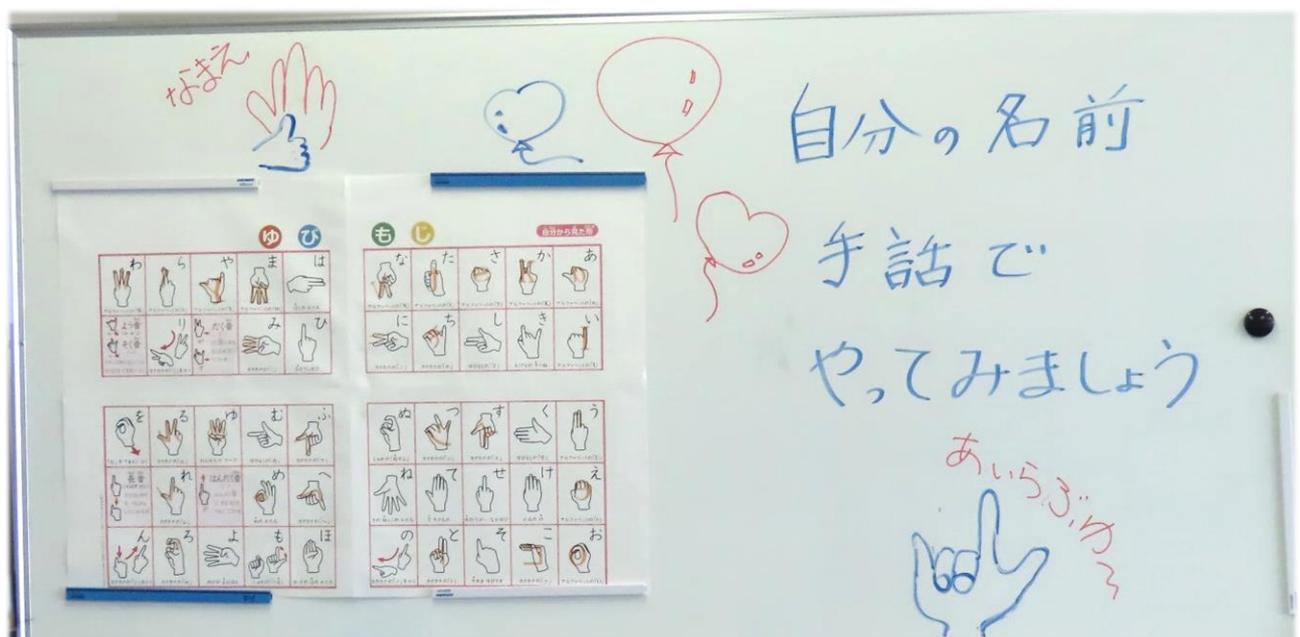
<p>振り返り まとめ</p>	<p>○振り返り</p>	<p>○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。 ○聞こえないことに対するイメージが変わったか、聞こえる人のできることはどんなことが共有する。</p>	<p>45分</p>
---------------------	--------------	---	------------

【想定される協力団体】

<p>・当事者</p>	<p>・手話通訳者</p>
-------------	---------------



手話の学習の様子



指文字で自分の名前を相手に伝えてみよう！

⑥「高齢者の疑似体験を通して

おじいちゃん、おばあちゃんと交流してみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	5 時間（45分×5） ※人数によって変わる

【学習のねらい】

- 高齢者（加齢）の理解と関わり方やコミュニケーションについて学ぶ。
- 児童・生徒も「地域の一員」であることを理解し、一人ひとりに役割があることに気づく。
- 学校と地域住民（民生委員・児童委員、老人クラブなど）が協働することで地域全体の取り組みとなり、大きなつながりが生まれ、地域での見守りや安全・安心の地域づくりにつながる。
- 疑似体験を通して高齢者の不便なことを知り、どう関わるかを考える。
- 地域の高齢者に関心と思いやりを持つ。

【指導上のポイント】

- 高齢者との交流により地域の一員であることに気づき、自分が地域で何ができるのかを考えるきっかけをつくる。
- 児童・生徒が高齢者と楽しく交流できるような場づくりを行う。
- 装具を着用するためケガには十分注意する。
- 加齢によるマイナスイメージだけが伝わらないように注意する。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉についての説明 ○高齢者（加齢）の理解と加齢に伴う身体の変化と特徴についての説明 ○高齢者疑似体験 ○高齢者を学校に招いた際に聞きたいことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉とは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○加齢による体の変化について、マイナスイメージがつかないように伝える。（体験学習資料を活用） ※必要に応じて高齢者施設の方に講師依頼。（米沢市社会福祉法人連絡協議会） ○グループに分かれて進める。（装具を着用するためケガに注意） 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料 ○疑似体験セット 	90分

		○体の拘縮、難聴、視力の低下等の体験をするため、コミュニケーション方法や高齢者への接し方を体験し、児童・生徒の気づきと学びにつなげる。		
体験編	○地域の高齢者との交流 ・高齢者にインタビュー ・昔遊び ・一緒に郷土料理を作る ・作品をつくる（手芸等） ・昔の話を聞く ・生徒が考えたゲーム	○グループに分かれ高齢者との交流を図る。 ○インタビュー形式で高齢者に質問。 ○事前に昔遊びはどんなものがあるかを生徒が調べておく。 ※地域の高齢者（民生委員・児童委員、老人クラブなど）		45分 ～ 90分
振り返り・まとめ	○振り返り	○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。		45分

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員・児童委員 ・ 米沢市社会福祉法人連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブ ・ ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉施設職員
---	---	--



地域の方との交流の様子。昔遊びや自分たちで考えたゲームなど、様々な交流を行っています。

⑦「私たちのまちの赤い羽根共同募金について

関心を持ち、実際に活動してみよう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	4 時間（45分×4） 街頭募金（45分）

【学習のねらい】

- 共同募金についての理解。（目的・使いみち等についての説明）
- 共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、様々な地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「自分の町をよくするしくみ」として、取り組まれていることを知ってもらう。
- ボランティア活動に興味・関心を持たせ、自分も地域の一員であるという意識や責任感、実行力を身につける。

【指導上のポイント】

- 赤い羽根共同募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」であることを理解してもらう。
- 自分たちの身近なところで共同募金が活用されており、たくさんの人から「ありがとう」の声が伝えられていることを知ってもらう。
- 誰でも取り組むことができるボランティア活動であることと、一人ひとりが地域を支えていることを知ってもらう。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学 び 編	<ul style="list-style-type: none"> ○共同募金について知っていること、聞いたことがあること、見たことがあることについて話し合う ○共同募金についての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○募金箱や赤い羽根等を準備し、イメージしやすいようにする。 ○資料をもとに説明。赤い羽根共同募金の仕組みについて伝える。 ○募金活動は自分たちにもできるボランティア活動であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○募金箱 ○赤い羽根 ○各種資料 	45分

		<p>○ボランティア活動のため強制ではないことを伝える。</p> <p>○資料をもとに、配分金の使いみちについて説明し、自分達の地域の様々な福祉課題の解決のために使われていることを伝える。</p>		
体験編	○みんなで募金箱を作る	○自分だけのオリジナルの募金箱を自由に作る。	○材料一式	45分
	○実際にまちに出て街頭募金を行う	○希望者を募り、学校や学区内のスーパー等で実施する。	○募金箱 ○赤い羽根	45分
振り返り	○振り返り	<p>○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。</p> <p>○共同募金は決して強制するものではないことを伝え、誰でもできるボランティア活動であることを伝える。</p>	○大判用紙 ○マジック	45分

【想定される協力団体】

- ・ 地域住民
- ・ ボランティア



自分で作った募金箱で募金活動をしている様子。

⑧「みんなも認知症サポーターになろう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	4時間（45分×4）

【学習のねらい】

- 認知症サポーターの役割について理解する。
- 児童・生徒も「地域の一員としてできる役割がある」ことに気づききっかけにする。
- 認知症を理解することで、相手への思いやりや気にかけること、地域の人に関心を持つきっかけづくりをする。
- 実際に地域住民と交流するきっかけづくりをする。

【指導上のポイント】

- 学年や年齢に合わせた内容を説明する。
- 認知症とはどんな病気なのかをわかりやすく丁寧に伝え、正しい情報を伝える。
- 地域住民と共に支え合っていくことの重要性と必要性について伝える。
- 自分たち一人ひとりが地域で何ができるのかを考えてもらえるきっかけをつくる。
- 地域包括支援センター、民生委員・児童委員等の協力をもらいながら進める。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉についての説明 ○高齢者及び認知症についての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉とは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○それぞれについて思っていること、感じていること、実際に認知症の方と関わった時のことなどを話しする。 		45分
体験編	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症サポーター養成講座の受講 ・認知症とは？ ・認知症の症状とは？ ・関わり方について ・声かけの方法とは？ ・地域での支え合いの必要性について 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症について正しく理解してもらう。 ○地域の方の協力をいただくことで、より中身の濃い内容になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料 ○プロジェクター ○スクリーン ○パソコン ○DVD 	60分 ～ 90分

	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症でもそうでなくても同じ人であることを伝える 			
振り返り まとめ	○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。 ○認知症の人も健常者も、共に生きていることを伝える。 ○学んだことを自分一人にとどめることなく、家族や友人に伝え、地域全体で高齢者を支えることの必要性について話しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大判用紙 ○マジック ○ホワイトボード 	45分

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部高齢福祉課 ・地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ・米沢市社会福祉法人連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員
--	--	--



⑨「みんなも消費者見守りサポーターになろう」

対象（学年）	所要時間
小学生～高校生	4時間（45分×4）

【学習のねらい】

- 消費者見守りサポーターの役割について理解する。
- 児童・生徒も「地域の一員としてできる役割がある」ことに気づくきっかけにする。
- 高齢者の消費者被害を防ぐために、地域でできることは何なのか？に気づき、地域で共に助け合うために何をしなければいけないのかを学ぶ。
- 高齢者宅に訪問することで新たな交流が生まれ、つながりや支え合いのきっかけづくりにする。

【指導上のポイント】

- 高齢者・高齢者世帯の増加、地域との関わりの希薄化について説明し理解してもらおう。
- 消費者被害の実例をもとに伝える。
- 消費者被害は地域住民の見守りで防ぐことが可能であることを伝える。
- 自分たち一人ひとりが地域で何ができるのかを考えてもらえるきっかけをつくる。
- 地域包括支援センター、民生委員・児童委員、地域住民等の協力をもらいながら進める。

【進め方】

	学習内容と活動	指導上のポイント	準備するもの	時間
学び編	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉についての説明 ○消費者被害にはどんなものがあるのかを話す 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉とは何か。について説明をし、理解を深めてもらう。 ○消費者被害にはどんなものがあるのかを話しする。 		45分
体験編	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者見守りサポーター養成講座の受講 ・消費者見守りサポーターについての説明 ・心理チェック ・事例説明 ・DVD視聴 ・ロールプレイング 	<ul style="list-style-type: none"> ○これから何が始まるのかを知らせ、参加者の興味関心を引きつけるように展開する。 ○民生委員・児童委員や地域の方の協力をもらいながら、実際にあった事例を紹介することで、より身近で被害が起きていることに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料 ※見守りワークブック ○プロジェクト ○スクリーン ○パソコン ○DVD 	60分～90分

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・替え歌 ・クーリングオフについて ※内容については、事前に打ち合わせを行い決めておく	○気づき、声かけ、相談につなげるの必要性について伝える。		
振り返りのまとめ	○振り返り	○体験して感じたことをみんなで話し合い、今後自分たちは何ができるのかを考える。 ○学んだことを自分一人にとどめることなく、家族や友人に伝え、地域全体で高齢者を支えることの必要性について話しをする。	○大判用紙 ○マジック ○ホワイトボード	45分

【想定される協力団体】

<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部高齢福祉課 ・地域包括支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民環境部生活安全課（消費生活センター） ・民生委員・児童委員 ・地域住民
--	--

【参考資料】

米沢市社会福祉法人連絡協議会『福祉学習』メニュー

No.	講座名	講座内容	講師
1	赤ちゃんを知ろう	乳児（0歳～2歳児）乳児と触れあい命の尊さを学ぶ	プチハウス
2	子どもと遊ぼう	幼子の心の育ちを学んで一緒に遊ぶ	興道こども園どんぐり
3	障がい児とのふれあい	障がい児との接し方をふれあいながら学ぶ	興道東部保育園
4	障がいの理解、高齢者の理解、介護予防（運動、食事と栄養等）	講話	米沢栄光の里
5	車いす体験・リハビリ体験	体験	米沢栄光の里
6	喜楽座による演劇	劇を通して、認知症、障がい、権利擁護等を学ぶ	米沢栄光の里
7	スマイル教室	高齢者との接し方、認知症サポーター養成講座、消費者見守りサポーター養成講座	緑成会成島園
8	高齢者疑似体験「まなび体」	高齢者疑似体験、車いす体験、介護食体験	米沢弘和会
9	障がい者・障がい児との関わり	声のかけ方、苦手なことを知る、車いす操作	にじの家
10	おいたまの郷認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座	敬友会おいたまの郷
11	社会福祉協議会（社協）の取り組みを学んでみよう	社会福祉協議会の取り組みについての話	米沢市社会福祉協議会
12	赤い羽根共同募金	赤い羽根共同募金の使い道など	米沢市社会福祉協議会

No.	講座名	講座内容	講師
13	心のバリアフリーについて	人間の多様性について理解を深め、支え合うことができるよう、一緒に考え学ぶ	米沢市社会福祉協議会
14	ふれあい交流	元気な高齢者の方と昔遊びをしたり、昔の暮らしぶりについての話や交流	米沢市社会福祉協議会
15	”聞こえない”って？	あいさつや簡単な手話を学んだり、「聞こえない」ことについて一緒に考え学ぶ	米沢市社会福祉協議会
16	ニュースポーツ交流	障がい者とスポーツ（ボッチャ、卓球バレー、グラウンドゴルフ）を楽しむ	米沢市社会福祉協議会

【様式 1】

米沢市社会福祉協議会 ボランティアセンター 行き

(FAX 0238-24-7861)

福祉学習依頼書

依頼日	令和 年 月 日		
学校名	小学校 中学校 高等学校	担当者	
TEL		FAX	
電子メール			
学年・クラス	年生 (クラス)	生徒数	人
学習内容			
学習目的 (ねらい)			
希望日時	第1希望: 令和 年 月 日 () : ~ : (校時~ 校時)		
	第2希望: 令和 年 月 日 () : ~ : (校時~ 校時)		
	第3希望: 令和 年 月 日 () : ~ : (校時~ 校時)		
実施場所	体育館 ・ 教室 ・ 多目的室 ・ その他 ()		
自由記載欄	※当日の学習で注意すべきことなどあれば記入してください		

※可能であれば学習指導案等の添付をお願いします。

※実施日の1ヶ月前までにご提出ください。

【様式2】

福祉学習打合せシート

令和 年 月 日 ()

*学校名・対象者

学校名	小学校 中学校 高等学校	連絡先	TEL :
			FAX :
対象者	年生 (クラス)	担当者	

*打合せ参加者

※教職員、講師、ボランティア・・・

*確認事項

※配慮すべき事項、駐車場、写真撮影など

*謝金について

支払金額	講 師 @ _____ 円 × _____ 名 = _____ 円	
	ボランティア @ _____ 円 × _____ 名 = _____ 円	
	合 計 _____ 円	
支払方法	団体へ支払 ・ 個人へ支払	現金 ・ 振込

※現金払いの場合は印鑑を持参、振り込みの場合は振込口座の確認

*当日のスケジュール

時 間	内 容	場 所	準備品	
			学校	社協

*講師からの依頼事項

当日準備するもの、服装、名札、事前下見など・・・

*借用機材等の搬出入について

機材名	搬入日	搬出日	※借用場所、担当職員等
・			
・			
・			
・			

※会場レイアウトの確認が必要な場合は写真を撮る

福祉学習プログラム集

発行日：令和7年1月

編集・発行：社会福祉法人米沢市社会福祉協議会

〒992-0059

米沢市西大通1丁目5番60号

電話 0238-24-7881

FAX 0238-24-7861